

貞山運河再生・復興ビジョンと 災害復旧工事について

宮城県土木部河川課

1. 日本一の運河群(貞山運河～東名運河～北上運河)



- 貞山運河(御舟入堀, 新堀, 木曳堀), 東名運河, 北上運河は, 阿武隈川から旧北上川まで, 全長約49kmにわたる日本一の運河。
- 舟運を主目的として伊達政宗の命により建設が始まり, 明治政府による東北地方の産業振興策として計画された「野蒜築港事業」に関連して延伸された。
- 現在では治水・利水機能に加えて, 歴史, 環境, 景観等の魅力を有する土木遺産として, 多くの方々に愛されている。



震災前の木曳堀の景観



2. 東日本大震災の被害

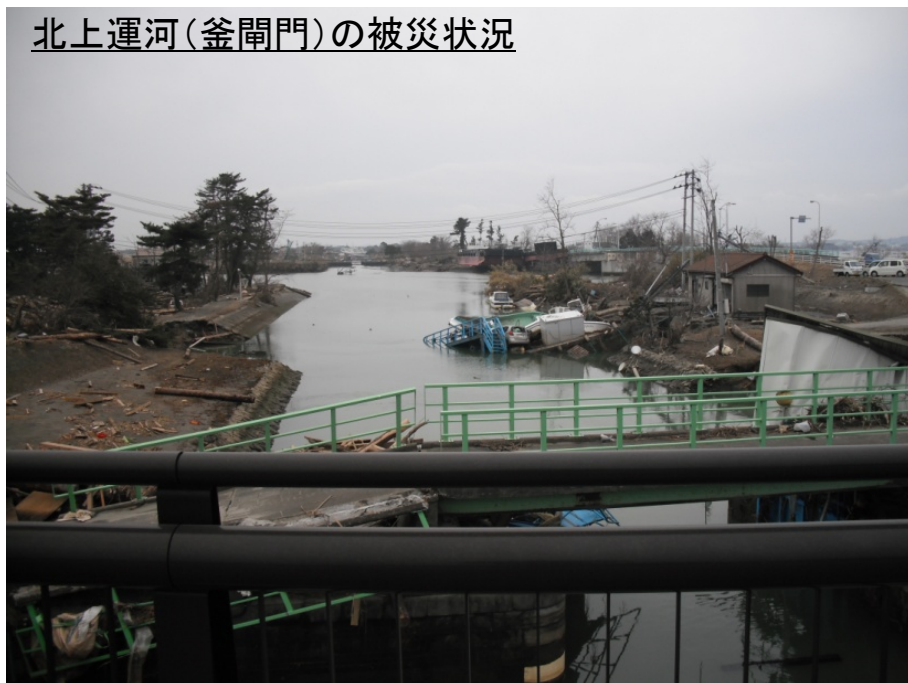
- 東日本大震災では、宮城県だけで1万人を超える死者・行方不明者。
- 宮城県の沿岸市街地が壊滅的な被害を受ける中、運河群も大きな被害を受けた。



東名運河の被災状況



北上運河(釜閘門)の被災状況



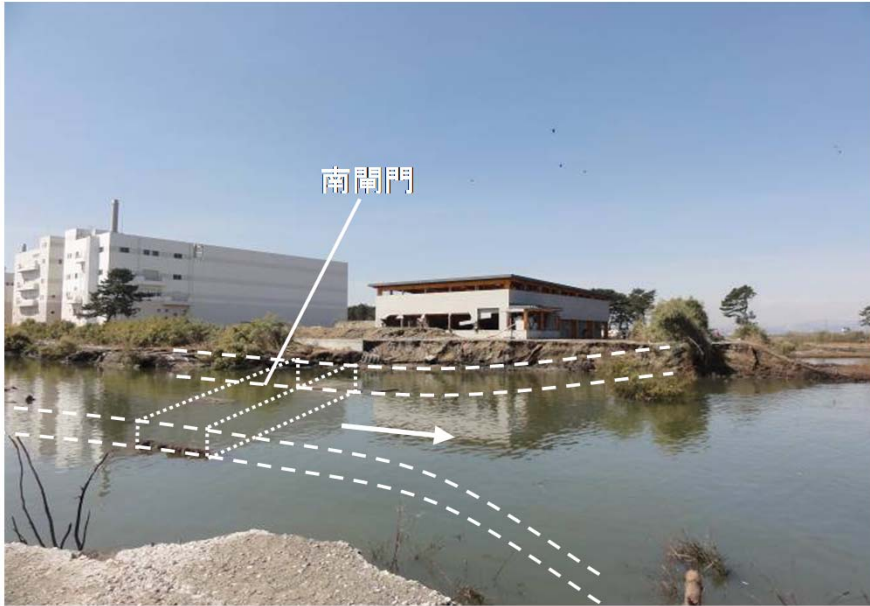
貞山運河(御舟入掘)の被災状況



2. 東日本大震災の被害② (仙台市荒浜・貞山運河〔新堀〕)



南閘門の完全流出



南貞山運河の被災状況



仙台市荒浜地区の被災状況 (提供:(社)東北建設協会)



3. 「貞山運河再生・復興ビジョン」策定の背景



- 運河群では震災以前から様々な利活用施策が検討・実施されてきた。
- 運河の災害復旧に当たっては、歴史的な背景や環境・景観等に配慮した、魅力的な整備が求められている。
- 沿川市町の震災復興計画においても、復旧後の運河の利活用や、観光資源としての役割が期待されている。

北上運河
ライトアップ



石井閘門(北上運河)



貞山運河フェスティバル(広浦)



プレジャーボートスポット
(旧砂押川)

4. 「貞山運河再生・復興ビジョン」策定の経緯



平成24年9月～

- ・行政連絡会議（国，県，市町）
- ・学識者検討座談会
- ・パブリックコメント
- ・有識者/NPO等ヒアリング
- ・知水講座（一般向け公開講座）



平成25年5月

「貞山運河再生・復興ビジョン」策定

- 沿岸地域の復興において“目標”とする姿や，それを実現するための仕組みを示す“指針”
- 様々な主体（国・県・市町・民間等）による復興事業が，“調和”をもって推進されるための“羅針盤”の役割を担う。

5. 「貞山運河再生・復興ビジョン」の概要



【基本理念】

運河群の歴史を未来へと繋ぎ、運河群を基軸とした“鎮魂と希望”の沿岸地域の再生・復興

【基本方針】

- ① 人と自然と歴史が調和した、人々が集う魅力的な沿岸地域の復興
- ② 自然災害に対して粘り強く、安全・安心な沿岸地域の再生

【基本目標】

1. 地域にとって誇りある歴史的な運河群としての再生
2. 自然災害に対して粘り強く強靱な沿岸地域の構築
3. 自然環境と調和し共生できる、運河周辺環境保全・再生の推進
4. 継続的な地域間の連携と、未来に向けて発展できる社会環境の構築

6. 取組予定

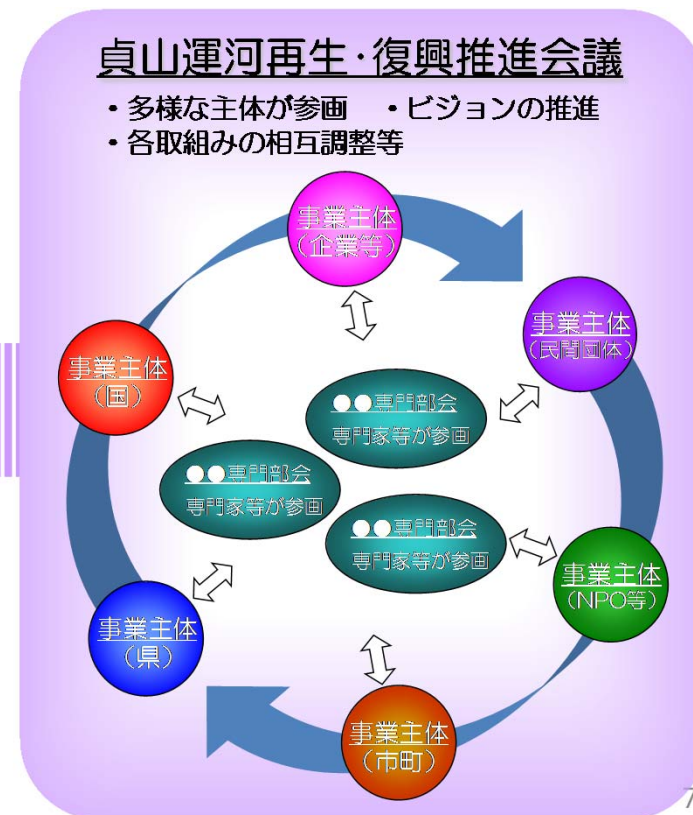


「貞山運河再生復興会議」の設立

- 国，県，沿川市町，学識者，NPO等からなる会議を設立。
- 意志決定の場ではなく，情報共有および意見交換の場とし，参加者の連携強化と，調和の取れた復興を図る。
- 復旧期間中は，当面，県（河川課）が事務局を務めるが，復興の進捗に応じて，まちづくりや運河の利活用を行う主体へと推移させる。
- 村井知事マニフェストに記載。
- 第1回目は行政関係者からなる準備会として平成26年1月中旬に開催予定。



情報発信



7. 取組予定②

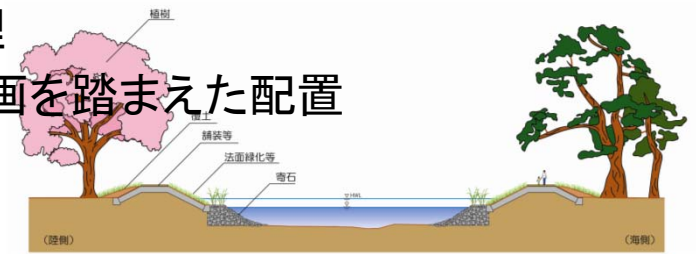


貞山運河の桜植樹計画

- 「地域にとって誇りある歴史的な運河群として再生」に向け、人々が集う魅力的な沿岸地域の形成を図るため、運河沿いに桜を植樹する。
- 満開の桜が被災者の慰めとなると共に、植樹経緯を通じた津波防災意識の継承を図る。

○基本方針

1. 全国からの寄付・協力を活かした官民連携による植樹と管理
2. 運河沿川自治体の復興まちづくり計画や新しい土地利用計画を踏まえた配置
3. 運河群の歴史や既存の景観，周辺自然環境との調和
4. 情報発信による参加と植樹の拡大



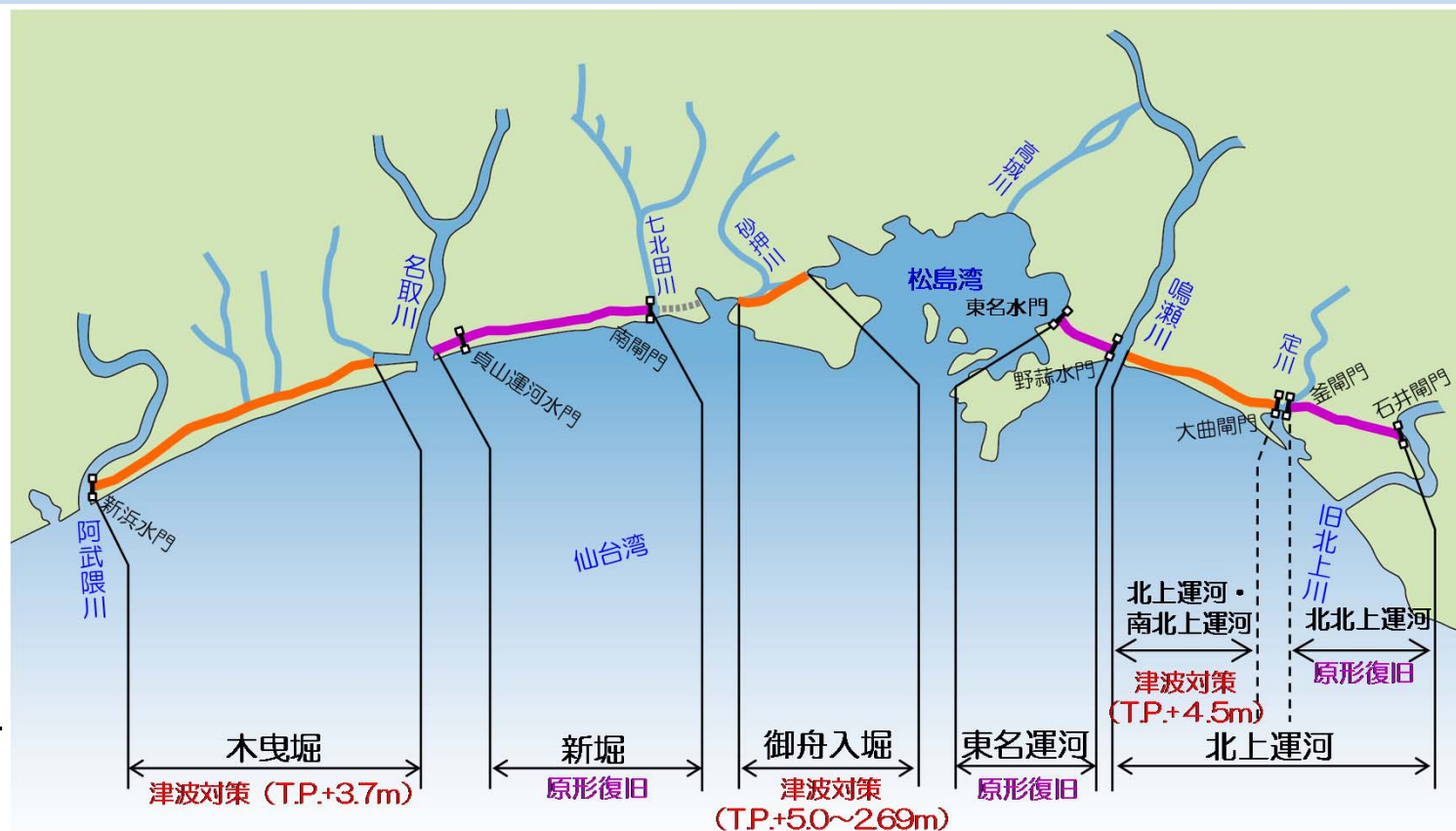
貞山運河の景観デザイン検討

- 各地域・区間の運河及び閘門等の景観デザインの検討を行い、桜植樹計画を含め、“運河群にふさわしい景観”の具体絵を、イメージパースとして作成。
- 沿岸地域への積極的な民間活力の呼び水となるよう期待するもの。
- 学識者からなる意見交換会，NPO等へのヒアリング，関係機関への意見照会等により検討を進め，平成25年度末までの成果とりまとめを予定。
- 仙台市域においては，本委員会の意見や海岸公園計画と整合・連携を図る。

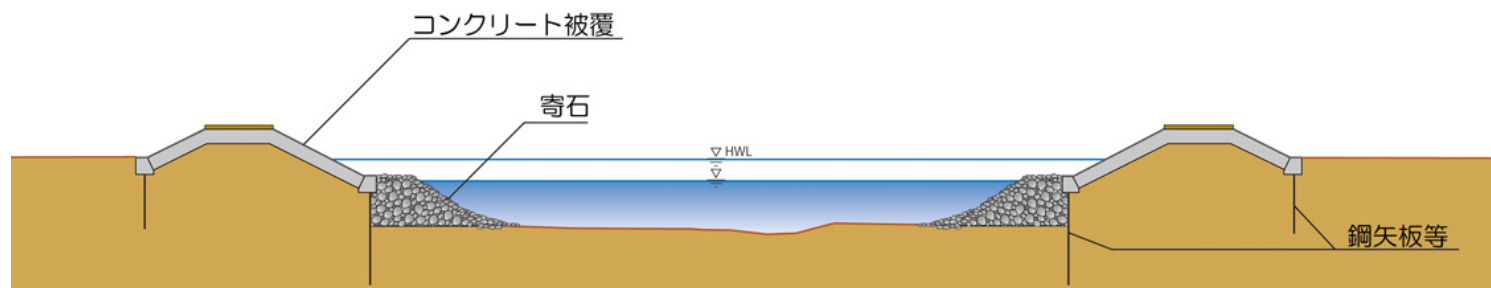
(参考) 運河群における災害復旧の基本的な考え方



- 河川津波対策は
1) 水門方式
2) 堤防方式
に分けられる。
- 新堀は、七北田川の南閘門を津波水門として復旧整備することにより、水門方式が採用される。
- 堤防方式では、津波対策として50cm厚の強固なコンクリートで被覆する。
- 水門方式の河川堤防では破損箇所や高さ不足を原形復旧する。



津波対策区間の堤防構造の一例



(参考) 貞山運河の災害復旧事業計画



○ 復旧概要

- 復旧延長 L=12,252m
 - 七北田川 L=3,504m
 - 南貞山運河 L=3,793m
 - 北貞山運河 L=4,955m
- 築堤工(COブロック被覆) L=1,890m
- 護岸復旧工 L=10,362m
- 水門工 N=1基

○ 復旧期間

- 着工:平成26年2月
(七北田川高砂橋上流工区より着手)
- 完成:平成29年度予定



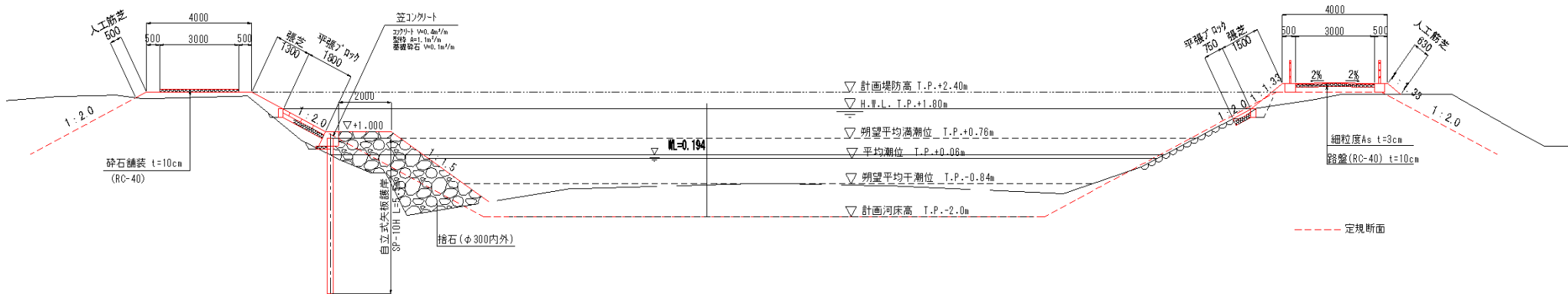
(参考) 貞山運河の災害復旧事業計画



北貞山運河

海側

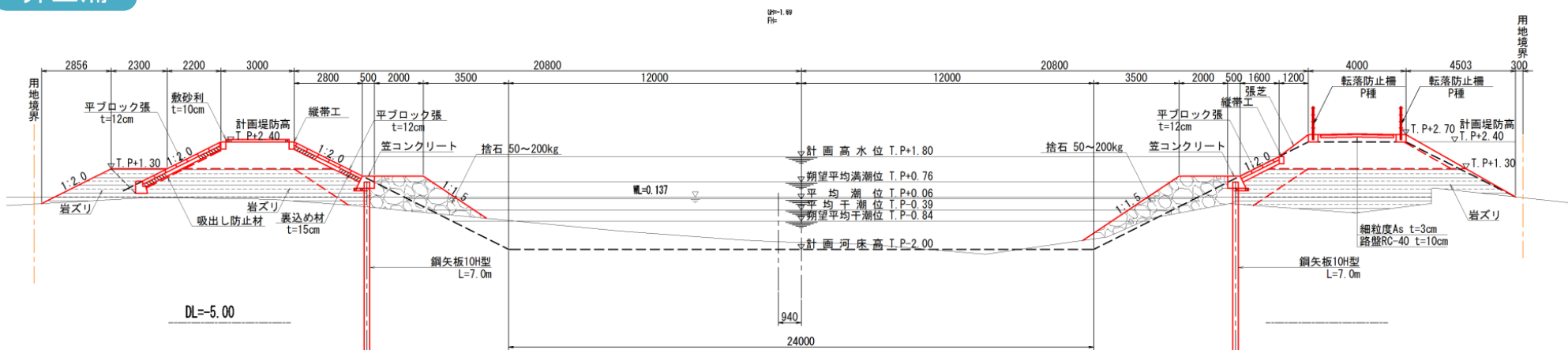
陸側



井土浦

陸側

北貞山運河(井土浦)



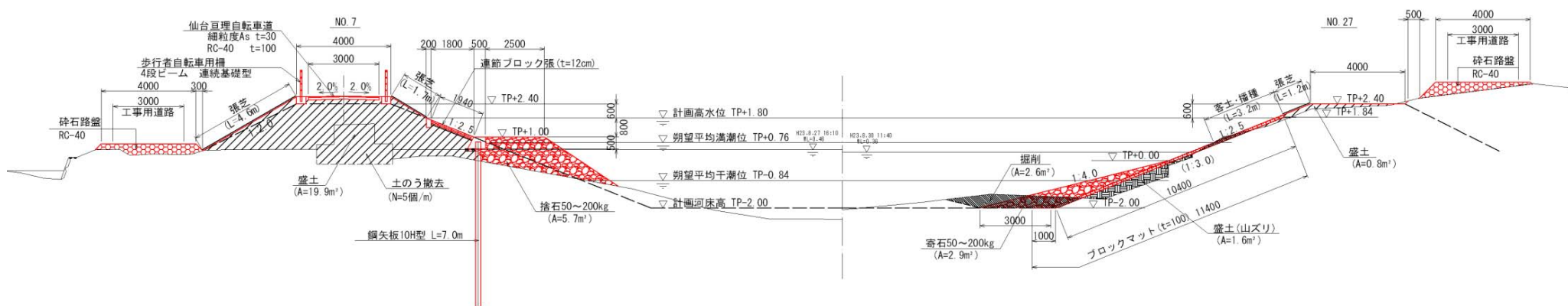
(参考) 貞山運河の災害復旧事業計画



陸側

南貞山運河

海側



南水門(南閘門跡)

正面図

